

プレスキット オランダパビリオン



2025大阪・関西万博



NL

Netherlands

Welcome! ようこそ、 オランダパビリオンへ

Let's meet on common ground!



世界中のジャーナリストの皆さまを、
オランダパビリオンに心より歓迎いたします。

このプレスキットでは、
2025年大阪・関西万博における
オランダの参加について、
詳しい背景情報をご提供いたします。

追加のご質問や取材リクエストがございましたら、
以下のメールアドレスまでご連絡ください。

media-nlexpo2025@minbuza.nl

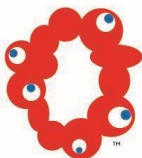
ウェブサイト：

www.NLexpo2025.nl

www.OrandaExpo2025.nl



@NLexpo2025



OSAKA, KANSAI, JAPAN

EXPO
2025

NL Netherlands

OFFICIAL PARTICIPANT

目次

2025年大阪・関西万博におけるオランダパビリオン

基本情報	4
見どころ	5
オランダが掲げるテーマ： コモングラウンド（共創の礎）	6

オランダパビリオン

オランダパビリオンの ストーリーライン	7
インスピレーション	9
マテリアルデポ	9
廃材の再利用	10
スタッフの服装	10
パビリオンの構成要素	11

来場者体験

来場者体験	12
水の世界を探求	13
エネルギーオーブ	13
A New Dawn (新たな幕開け)	14
プレッジ・ステーション	14
イノベーション	15
ミッフィー	19
ショップ	22
カフェ	24

イベント

ビジネスプログラム	27
一般向けイベント	28
日蘭交流425周年	29

オランダについて

世界の課題にともに取り組む	31
パートナー	32

基本情報

オランダの万博参加の中心コンセプトは「コモングラウンド（共創の礎）」です。これは、集団で問題を解決するという姿勢を表し、何世紀にもわたってオランダが培ってきたものです。オランダは国土の大部分が海面下にあるため、常に水害と向き合い、それを克服するために協力してきました。現代においても、私たちは単独では解決できないグローバルな課題に直面しています。オランダは他の国々と協力し、アイデア、専門知識、革新技術を共有することを提案します。

また、このテーマは、日本とオランダの425年にわたる関係を祝うものでもあります。オランダが日本と共通の基盤を築いたのは、今から4世紀以上も前のことでした。

オランダパビリオンでは、来場者は一人ひとりが「エネルギーオーブ」という球体のインタラクティブデバイスを用いて、館内のさまざまなインスタレーションと対話しながらパビリオン内を巡ります。このパビリオンは、循環型のコンセプトに基づいて設計された、オープンな交流の場です。ここでは、人々が革新的なアイデアや専門知識を共有し、新たなコラボレーションを生み出すことができます。再生可能エネルギー、サーキュラリティー（循環性）、ライフサイエンス、健康、農業食品・園芸技術、デジタル技術などを軸にした未来のライフスタイルを探求します。さらに、アートとデザインが、よりスマートな解決策につながるイノベーションをどのように生み出すのかを紹介します。

オランダパビリオンは、日本の大阪・関西万博2025「いのちを救う」エリアのS13区画に位置しています。

オランダパビリオンは、共同事業体であるコンソーシアム「A New Dawn (AND) BV」によって建設されました。この共同事業体は、建築事務所『RAU』、体験型デザインスタジオ『Tellart』、エンジニアリングコンサルタント会社『DGMR』、大阪の総合建設会社『浅沼組』で構成されています。



見どころ



- 水がもたらす可能性を探求しましょう：オランダ・パビリオンは、私たちと水との深い関係を称えています。水はこれまで私たちの風景や文化を形作ってきました。私たちは再び自然の力を活かし、今日の世界的な課題を解決することができます。循環型社会への移行を促し、エネルギー転換にも貢献する革新的な取り組みを提案します。
- オランダパビリオンは、すべての部材を分解し再利用できるよう設計・建設された完全循環型の建築です。
- 万博期間中、ミッフィーがオランダの「キッズアンバサダー」を務めます。館内ではミッフィーに出会えるほか、ショップで限定のミッフィーグッズを販売します。
- 2025年には、オランダの万博参加と日本との425年の関係を祝う特別展示が大阪城で開催されます。また、これを記念した特別デザインの記念紙幣も発行予定です。
- オランダパビリオンは、あらゆる世代の人々にインスピレーションを与えるよう設計されています。パビリオンの内外には、来場者を魅了し、SNS映えするスポットが多数用意されています。さらに、私たちのパビリオンでは、世界初のAI生成による360度ドーム映像を上映しています。



Netherlands

オランダが掲げるテーマ： コモングラウンド（共創の礎）

オランダは長い歴史の中で、周りとの協力する文化を築いてきました。国土の多くが海面下に位置するため、水と共存するための技術や仕組みを生み出してきました。風力を利用して土地を開拓し、洗練された水管理システムを発展させてきたのです。このように、オランダの風土とマインドは「コモングラウンド」の考え方に基づいています。

オランダと日本が初めて「コモングラウンド」を築いたのは、今から400年以上前のことです。私たちの交流は平戸で始まり、その後、出島を通じて協力関係を深めていきました。蘭学の学び舎は日本各地に広がり、西洋医学や水管理技術の伝来など、多くのイノベーションに貢献しました。

現代においても、気候変動、食糧安全保障、高齢化社会、グローバルヘルスなど、世界が直面する課題は単独では解決できません。健康で幸せな社会を実現するためには、知識やアイデアを共有し、協力することが不可欠です。

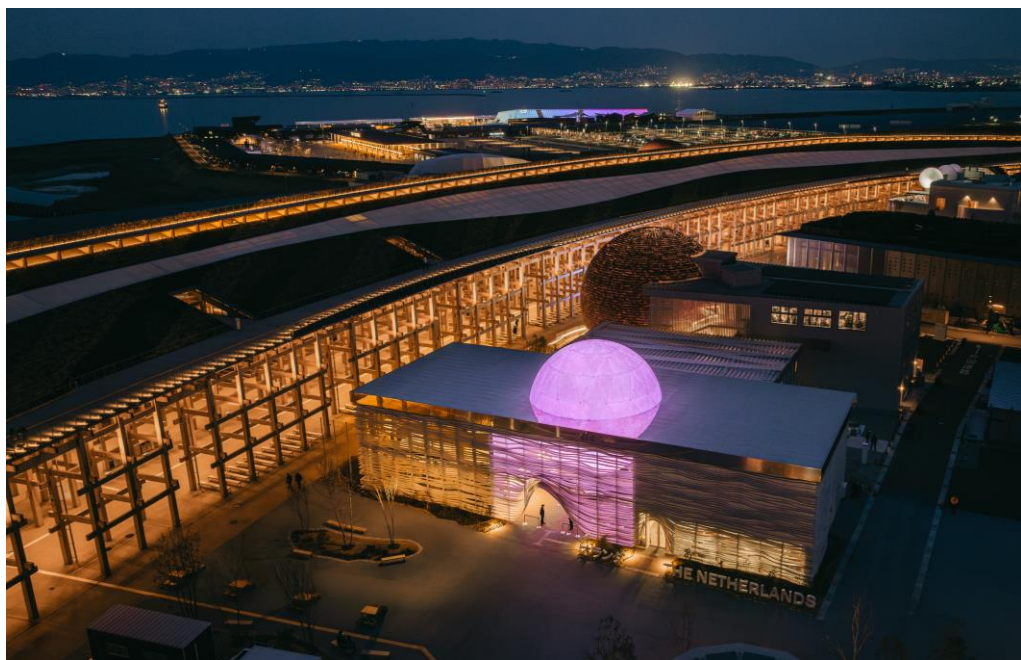
Copyright : Frans Lemmens



オランダパビリオン



2025年万博では、オランダは皆さんを「コモングラウンド」へと招待します。私たちの循環型パビリオンは、革新的なアイデアを共有し、新たなコラボレーションを生み出すためのオープンな交流の場です。ここでは、再生可能エネルギー、サーキュラリティー（循環性）、ライフサイエンス、健康、農業食品・園芸技術、デジタル技術といった分野を通じて、未来の暮らしを探求します。さらに、アートとデザインがどのようにイノベーションを促進し、よりスマートな解決策を生み出すかを発見していきます。



Copyright: AND BV | Zhu Yumeng

オランダパビリオン



エネルギーは私たちのあらゆる活動に欠かせないものであり、中核であるといっても過言ではありません。現在、世界は二つの緊急課題に直面しています。それは、資源の不足と化石燃料への依存からの脱却です。地球は外部から新たに資源が供給されることのない、閉鎖的なシステムであるからです。

循環性（サーキュラリティ）とは、限られた資源や材料を無限に活用できるようにする仕組みです。このシステムの中では、太陽光や風力、水から得られる再生可能エネルギーを活用します。循環型経済へ移行することで、私たちは新たな時代の幕開けを迎えることができます。オランダパビリオンでは、自然の力を活かす革新技術を紹介します。これらのソリューションは、私たちの暮らしに大きな影響を与え、より循環型のシステムへと移行する助けとなります。かつて私たちが水の力を利用してきたように、再び自然の要素を活かすことで、持続可能な未来へと進むことができます。



Copyright: AND BV | Tellart

インスピレーション

オランダパビリオンの設計において、1970年大阪万博のために日本の芸術家 岡本太郎（1911-1996）が制作した「太陽の塔」が、大きなインスピレーションとなりました。この彫刻には三つの太陽が描かれており、塔の最上部にある「黄金の顔」は未来を象徴しています。1970年大阪万博において、「進歩」と「未来への希望」という理念を表現した、非常に印象的なアート作品です。

オランダパビリオンの中心に配置された球体は、この岡本太郎の「黄金の顔」と同じ直径10.6メートルで設計されています。この球体は、自然の力と、すべての生命を育む太陽の無限のエネルギーを象徴しています。

マテリアルデポ

万博のパビリオンは一時的なものです。オランダパビリオンも、6か月後には解体されなければなりません。循環型経済における最高の目標は、既存の物を廃棄したり撤去したりしないことです。万博の一時的な性質を考慮すれば、会期後にパビリオンを移転させる必要があります。構造物全体、主要な構造躯体、外壁やパビリオン外装の波型ファサード、そしてすべての仕上げが、分解できるように設計されています。使用されるすべての部品と材料は、接合部やネジがすべて見える状態で、解体できるように接続されています。また、それぞれの要素には固有の識別情報があり、Madasterのマテリアル・パスポートに記録されています。万博終了後、パビリオンは解体され、輸送用コンテナに保管されます。その後、新しい場所に移設され、新たな目的が与えられます。



廃材の再利用

イベントスペースのベンチや、カフェ内のテーブルやカウンターは、オランダの企業Coolooが提供しています。Coolooは、廃材を再利用して新たなテキスタイル（レザー、デニム、コルクなど）を生産する企業です。同社は、素材を2mmの薄い層に加工し、柔らかいクッション性のある発泡体（ウレタンフォームなど）にコーティングする技術により、素材の継ぎ目がなくなめらかなデザインの家具をあらゆるサイズや形状で製作しています。



スタッフの服装

オランダパビリオンのスタッフが着用するユニフォームは、Schijvens Corporate Fashionが提供しています。Schijvensは、161年の歴史を持つオランダの家族経営企業です。大阪コレクションのパンツや女性用トップスは、GRS認証を受けたプレコンシューマー（製造工程で発生する未使用の廃材）リサイクルポリアミドから作られています。男性用ポロシャツは、50%リサイクルコットンと50%リサイクルポリエステルを使用したSchijvensの循環型コレクションの一部です。

これらの衣類は、Schijvensが所有するトルコ・メルシンの自社工場で製造されています。この工場では、従業員に「リビングウェージ（生活賃金）」を支給し、男女比50:50の均等な雇用機会を確保し、性別による労働条件の不平等が一切ない環境を実現しています。



Copyright: Cooloo (photo 1)

パビリオンの トリビア



- パビリオンは、2つの部分（イベントスペースと体験／ショップとカフェ）で構成されており、これらが球体と屋根を共に支えています。これはパビリオンのコンセプトである「コモングラウンド」を表わしています。
- オランダパビリオンの主構造は鋼鉄で作られており、重量は1,620トンです。屋根の上には研磨された鏡面仕上げのRVS板が設置されており、万博会場を囲む木製のリングの上を歩く来場者が常に球体全体を見ることができるようになっています。また、その鏡のように機能する屋根は、水面の反射も映し出します。パビリオンの内部でも完全な球体が見えるようになっています。
- パビリオン外部の波型ファサードは水の流れを表現しており、日本とオランダの交流425周年にちなみ、総延長425メートルとなっています。最初のオランダ船「デ・リーフデ号」は1600年に日本に到着しました。これらの波型ファサードは繊維強化プラスチックでできており、自然災害対策の規制にも適合するように、非常にしっかりと固定されています。
- パビリオンのカーテンは、メイ・エンゲルギール（Mae Engelgeer）がデザインし、カーテン素材は富士吉田の在庫生地を活用しています。このカーテンは富士吉田に受け継がれる伝統織物「甲斐絹（かいぎ）」の豊かな伝統に着想を得ており、職人技と現代的なデザインが融合した作品となっています。
- イベントスペースに設置される三つの提灯は、直径1〜1.5メートルのサイズで、京都に現存する最後の伝統的な提灯職人の工房「小嶋商店」によって製作されました。小嶋商店の提灯は、すべて熟練した職人の手作業によって仕上げられています。
- パビリオン内の家具は、オランダのソファ・椅子メーカー「Het Anker」が提供しています。Het Ankerでは、役目を終えた家具を再利用し、PET素材の生地を用いて新品同様に仕上げられています。イベントスペースの椅子には、リサイクルレザーが使用され、環境への配慮が施されています。



Netherlands

来場者体験



オランダパビリオンは、水との深い関わりをテーマに掲げています。海面下に暮らす国として、オランダは環境に適応し、課題をチャンスへと変える術を学んできました。違いを受け入れ、協力することで、私たちは水と共生するための革新的な解決策を生み出してきました。この考え方こそが、私たちの提唱する「コモングラウンド」の精神です。

このアプローチは、単に水害を防ぐことにとどまらず、水を日常生活に取り入れ、その可能性を最大限に引き出すことを目指しています。今こそ、水との関係を見つめ直し、それをクリーンな再生可能エネルギー源として活用し、持続可能な未来を支える力へと変えていく時です。オランダパビリオンは、人々が協力し、自然と共生しながら、共通の課題を乗り越える方法を提案します。

この来場者体験は、アムステルダムを拠点とする体験型デザインスタジオ『Tellart』によって創り出されました。



Copyright: AND BV | Tellart

水の世界を探求

オランダパビリオンに足を踏み入れると、まず目に入るのは壁面展示です。この壁面展示は、メインテーマである「コモングラウンド」の考え方を表現したものです。このテーマは、異なる立場や価値観を尊重し、協力しながら大きな課題に取り組むことの重要性を伝えています。これは、オランダが歴史的に水と向き合い、共存の道を模索してきた歩みにも通じています。壁画と対になるインスタレーションとして設置されているのが**水盤**です。この作品では、不規則に揺れる水の流りが、次第に調和の取れた波紋へと変化する様子が表現されています。オランダが培ってきた独自の水管理技術を象徴するとともに、協力によって生まれる調和を視覚的に体感できる仕掛けです。



エネルギー オーブ

「コモングラウンド」の精神を理解した後、来場者には「**エネルギーオーブ**」が手渡されます。これは、館内のインタラクティブな展示を体験するための球体デバイスです。

その一つがウォーター・ウォール（**水の壁**）と呼ばれるインタラクティブな壁面展示です。この壁面展示は、オランダと水の深い関係をより探求する展示であり、オランダが水を単なる脅威ではなく、共存すべき資源として受け入れてきた歴史を伝えます。来場者は、オランダがどのようにして水の可能性をさらに引き出せるのかを考えながら、展示を体験することができます。



Copyright: AND BV | Tellart



A New Dawn (新たな幕開け)

パビリオン内にある大きな球体空間に足を踏み入れると、来場者は「A New Dawn (新たな幕開け)」と名付けられた、ドーム状のスクリーンに映し出されるAI生成の映像に包まれます。この映像は、限りある資源を持続不可能な形で消費し続ける人類の現状を問いかけ、水の力を活用した持続可能な未来への可能性を描いています。映像のクライマックスでは、来場者が持つエネルギーオーブが鮮やかな紫色に輝きます。これは、水が持つ無限のエネルギーとその再生可能性を象徴しています。



プレッジ・ ステーション

エネルギーオーブを手に、来場者はパビリオンの最終エリアへと進みます。ここで中心となるのがイノベーション・ショーケースです。オランダで開発された革新的な技術が紹介されており、その多くは水をエネルギー源として活用する最先端の取り組みです。そして最後に訪れるのが「プレッジ・ステーション (誓いの場)」です。ここでは、来場者が「コモングラウンド」の精神を実践しながら、協力してデジタルアートを創り上げる体験が用意されています。このジェネレーティブアートは、パビリオンのメッセージを視覚的に表現するものであり、来場者一人ひとりの想いが集まり、私たち全員で築く未来の象徴となります。

Copyright:
AND BV | Zhu Yumeng (photo 1)
AND BV | Tellart (photo 2)

イノベーション

オランダパピリオンでは、未来に大きな影響を与える可能性のあるオランダ発の革新技術を紹介します。



Eco-Runner (エコランナー / *Eco-Runner Team Delft*)

「もし都市向けの車が水で走るとしたら？」

エコランナーは、超高効率な水素燃料自動車です。水素を燃料として活用することで、燃費性能を最大限に高め、持続可能なクリーンモビリティを実現します。化石燃料ではなく、地球上で最も豊富な元素である水素をエネルギー源とする未来の車として、エコランナーは新たな道を切り開いています。



Roboat (ローボート / *AMS Institute & MIT*)

「もし内陸の水路がスマートな交通網になったら？」

ローボートは、自律航行型の電動ボートで、水上輸送を革新するプロジェクトです。ヨーロッパの都市には広大な水路ネットワークが広がっていますが、この技術により、人や物資を運ぶ自動運転船が誕生し、交通渋滞の解消やCO2排出量の削減につながります。歴史ある水路を、現代的かつ持続可能な輸送手段へと進化させるイノベーションです。



Wave Energy Conversion (波のエネルギー変換 / *Weco*)

「もし海の波が世界を動かすエネルギーになったら？」

海の波には、膨大な未活用のエネルギーが秘められています。Wecoの波力発電技術は、波の運動エネルギーを電力に変換するシステムです。波とともに動く浮体プラットフォームが、水平方向の動きを活用して発電機構を駆動し、安定したエネルギーを供給します。信頼性が高く予測可能な波力エネルギーは、再生可能エネルギーの未来に重要な役割を果たします。

イノベーション

オランダパピリオンでは、未来に大きな影響を与える可能性のあるオランダ発の革新技術を紹介します。



H2Fuel (水素燃料貯蔵技術 / H2Fuel)

「もし水素ガスを粉末のように安全に保存できたら？」

水素はクリーンな燃料ですが、その貯蔵には安全性の課題がありました。H2Fuelは、水素を固体粉末として貯蔵・放出する画期的な技術を開発。超純水と触媒を加えるだけで、粉末から水素ガスを取り出せます。安全性と持続可能性を両立した、次世代エネルギー貯蔵の革新技術です。



Floating Solar Panels (浮体式太陽光発電 / SolarDuck)

「太陽光パネルがサーフィンを始めたら？」

SolarDuckの浮体式ソーラーパネルは、陸地ではなく水上に浮かべて発電するシステムです。波に乗りながらも安定して発電できるよう設計されており、過酷な環境下でも稼働可能です。日本とオランダの技術を融合させた東京湾での最新プロジェクトも進行中で、持続可能な未来のエネルギーを支えます。



Aquathermal Energy (アクアサーマルエネルギー / Certhon)

「もし水の熱で農業を支えられるとしたら？」

Certhonのアクアサーマルエネルギー技術は、水面の熱を利用して温室を暖房するシステムです。これにより、化石燃料への依存を減らし、作物を最適な環境で育てることが可能になります。水資源と農業の新しい関係を築く、持続可能な技術です。より環境に優しい農業への答えは、青い水の流れの中にあります。

イノベーション

オランダパピリオンでは、未来に大きな影響を与える可能性のあるオランダ発の革新技术を紹介します。



North Sea Farm #1 (ノースシーファーム/多機能プロジェクト : *North Sea Farmers, Plymouth Marine Laboratory, Deltares, Silvestrum Climate Associates, Simply Blue Group, Algaia, Amazon's Right Now Climate Fund*)

「もし海洋農業が世界の食糧問題を解決し、環境を回復させることができたなら？」

ノースシーファームは、洋上風力発電の間に海藻を栽培することで、持続可能な食料生産と海洋生態系の回復を目指すプロジェクトです。この農場では、食料やパッケージ、農業用途など多様な用途に活用できる栄養豊富な海藻を生産するとともに、炭素を吸収し、海洋生物の生態系を豊かにする役割も果たします。



Cell-Based Fish (培養魚肉/Upstream Foods)

「もし海の幸が、海から生まれないとしたら？」

Upstream Foodsは、魚の脂肪細胞を培養することで、本物の魚の味や食感を再現する技術を開発。これにより、乱獲や海洋汚染を防ぎながら、持続可能でおいしいシーフードを提供できます。網も養殖場も必要なし。環境を守りながら、未来の食卓を支える新たな選択肢です。

イノベーション

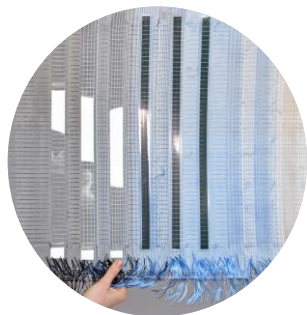
オランダパピリオンでは、未来に大きな影響を与える可能性のあるオランダ発の革新技术を紹介します。



Endless Life® Technology (エンドレスライフ・テクノロジー / *CooLoo*)

「もしすべての素材が無駄にならないとしたら？」

CooLooのEndless Life®テクノロジーは、廃棄物を再利用し、美しく長持ちするインテリア製品や表面材へと生まれ変わらせる技術です。残材とバイオ由来の結合材を組み合わせることで、廃棄物に新たな命を吹き込み、再利用可能な資源へと変換します。この革新技术は、資源を循環させ、消費を抑えながらCO2排出を削減する新しいデザインの形を提案します。



SUNTEX (ソーラーテキスタイル / *Pauline van Dongen & Tentech*)

「もし布が太陽のエネルギーを活用できたら？」

SUNTEXは、軽量で柔軟な太陽光発電が可能なテキスタイルで、発電機能と建築デザインを融合させた革新的な素材です。日常のあらゆる場所を再生可能エネルギーの発電源へと変えることができます。この素材は、冷却効果・太陽光発電機能・美しいデザイン性を兼ね備え、快適で気候に適応した空間を生み出します。建物のファサード（外壁）、テント、日よけ布などに最適で、都市をより持続可能でレジリエント（回復力のある）な未来へと導きます。

ミッフィー

オランダパビリオンのキッズアンバサダー

2025年大阪・関西万博オランダパビリオンでは、ミッフィーが「キッズアンバサダー」に就任しました。ミッフィーは、パビリオンで子どもたちを温かく迎え入れ、彼らの冒険のパートナーとして一緒に旅を楽しみます。

ミッフィー（オランダ語: Nijntje、発音: ナインチェ）は、1955年に発表された絵本シリーズに登場する小さな女の子のうさぎです。イラストレーターで作家のディック・ブルーナが生み出したキャラクターの中で最も有名で、30冊以上の絵本に登場しています。



© Mercis bv

ミッフィー

オランダパビリオンのキッズアンバサダー

パビリオンでのミッフィーの役割

ミッフィーは、パビリオン内のさまざまな展示を子どもたちと一緒に体験します。館内の随所に、子どもたちの目線に合わせた高さでミッフィーが配置され、来場者を優しく案内します。さらに、英語・日本語の2か国語に対応したミッフィーが登場する絵本展示を通じて、パビリオンのストーリーをシンプルな言葉とイラストで説明し、子どもたちの理解を助けます。

会期中、合計14種類の絵本が展示される予定です。



ミッフィー

オランダパビリオンのキッズアンバサダー

パビリオンショップでのミッフィーグッズ

オランダパビリオンでは、Mercis BV および Dick Bruna Japan と協力し、限定ミッフィーグッズを販売します。ラインナップには、オランダの文化的アイコンであるチューリップ柄のドレスを着たミッフィーのぬいぐるみや、オランダパビリオンの象徴である球体を抱えたミッフィーのぬいぐるみで、ひと目でオランダパビリオンを思い出させる特別なデザインとなっています。



© Mercis bv

ショップ

カフェとショップは、オランダ企業のVan Der Linde Food, Catering & Eventsによって運営されています。ショップでは、オランダを象徴するユニークな品々や、著名なオランダ人デザイナーによる商品を取り揃えています。また、ストロープワッフルやチョコレートなどの食品もご家庭用にご購入いただけます。



SUSAN BIJL (スーザンベル)

スーザンベルは、オランダのデザイナーで、2000年に「The New Shopping Bag」の初のデザインと試作品を発表しました。彼女のミッションは、使い捨てプラスチックバッグを減らし、環境への影響を抑えることです。スーザンベルは、世界的に人気のあるブランドで、日本にも多くのファンがいます。オランダパビリオンのショップでは、スーザンベルのアイテムを限定販売します。



© Mercis bv

ミッフィー

詳しくは キッズアンバサダー「ミッフィー」の項目をご覧ください。ショップでは、ミッフィーのぬいぐるみに加え、ミッフィーがデザインされたデルフトブルー陶器を販売します。デルフトブルーの商品には、職人による手描きのものと、トランスファー技法（転写技法）を用いたものがありますが、いずれも職人の手仕事によるものです。オランダパビリオンでは、ミッフィーデザインを含むロイヤルデルフトブルー製品を取り揃えています。



メゾン・ヌーヴ香水

2022年、デルフト出身の夫婦、ウィボとビルヒッテ・スヘーベルは、ウィボの高祖叔母であるアグネタ・ファン・マルケンが19世紀後半に創作した香水「メゾンヌーヴ」を復活させました。彼らは調香師ウェッセル＝ヤン・コスと協力し、新たな香り「A New Dawn」を誕生させました。この香りは、手描きのデルフトブルーのボトルに収められ、2025年の日本・関西・大阪万博で再び世界に紹介されます。

ショップ

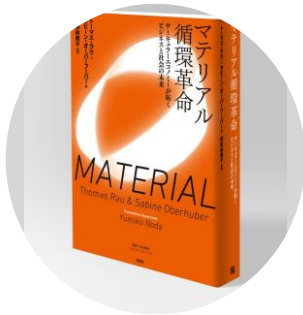
カフェとショップは、オランダ企業のVan Der Linde Food, Catering & Eventsによって運営されています。ショップでは、オランダを象徴するユニークな品々や、著名なオランダ人デザイナーによる商品を取り揃えています。また、ストロープワッフルやチョコレートなどの食品もご家庭用にご購入いただけます。



日蘭交流425周年記念紙幣

オランダの大阪・関西万博への参加を記念して、大阪万博と日本との425年にわたる関係を祝う特別な記念紙幣が制作されました。片面には「コモングラウンド」をテーマにしたオランダパビリオンが描かれており、これは世界中の国々に対して、現代の課題に共に取り組むよう呼びかけるメッセージとなっています。もう片面には、オランダと日本の長い交流の歴史を象徴する場面が描かれています。

この紙幣は、オランダ・ハーレムにあるロイヤル・ヨハン・エンスヘデ社によって印刷されました。また、デジタルエージェンシー「Wij doen dingen」によって特別なAR（拡張現実）機能を備えたアプリも開発され、ユーザーは紙幣をスキャンすることで、オランダ館を3Dで体験することができます。



マテリアル循環革命—日本語特別版

サビーネ・オーバービューバーとトーマス・ラウによる画期的な書籍『Material Matters（マテリアル・マターズ）』の日本語特別版が、2025年大阪・関西万博の期間中、オランダ館のショップで販売されます。この書籍はサーキュラーエコノミー（循環型社会）について掘り下げ、従来の物質利用に対する考え方に挑戦し、より持続可能な未来に向けた革新的な解決策を提示しています。今回の万博に合わせて、オランダ館の建設に関する新たな章も追加されています。なお、オランダ館の設計はRAUアーキテクトが手がけました。

カフェ

カフェでは、オランダならではのユニークな料理を提供しており、ベジタリアン向けのメニューも多くご用意しています。



ゴードチーズトスティ

ゴードは、オランダ南ホラント州にある小さな町で、ゴードチーズの生産地として世界的に有名であり、毎年何百万人もの観光客が訪れます。ゴードチーズは、クリーミーでほんのり甘みのある、濃厚な黄色い牛乳チーズで、世界中で愛されているチーズです。オランダパピリオンでは、ゴードチーズの豊かな風味をダイレクトに味わえるよう、加工や調理をせず提供します。また、「トスティ」（オランダ風のホットサンド）として、パンに挟んで焼いたものも用意しています。お好みでケチャップなどのソースを添えることもできます。



ストロープワッフル

近年、ストロープワッフルは世界的に人気を集め、カフェチェーンやスーパーマーケットでも販売されるようになりました。このお菓子は、薄く焼いた2枚のクッキー生地の上にシロップを挟んだ円形のワッフルで、オランダでは、19世紀初頭から親しまれている定番のお菓子です。オランダパピリオンでは、現地の市場やベーカリーと同じように、焼きたてのストロープワッフルを提供します。

カフェ

カフェでは、オランダならではのユニークな料理を提供しており、ベジタリアン向けのメニューも多くご用意しています。



ブローチェ・ハーリング (ニシンサンドイッチ)
ニシンは、オランダの食文化において長い歴史を持つ定番の食材です。伝統的な食べ方は、尾をつかんでそのまま口に運ぶスタイルで、生のタマネギを添えて風味を引き立てます。もっと手軽に楽しむ方法としては、白いパンに挟んで食べる「ブローチェ・ハーリング (ニシンサンド)」があります。これは、刻みたての生タマネギと数枚のピクルスを一緒に添えるのが一般的です。新しい味にチャレンジしてみたい方には、2025年大阪・関西万博のオランダ館でこのニシン料理が提供されます。



ハイネケン 0.0

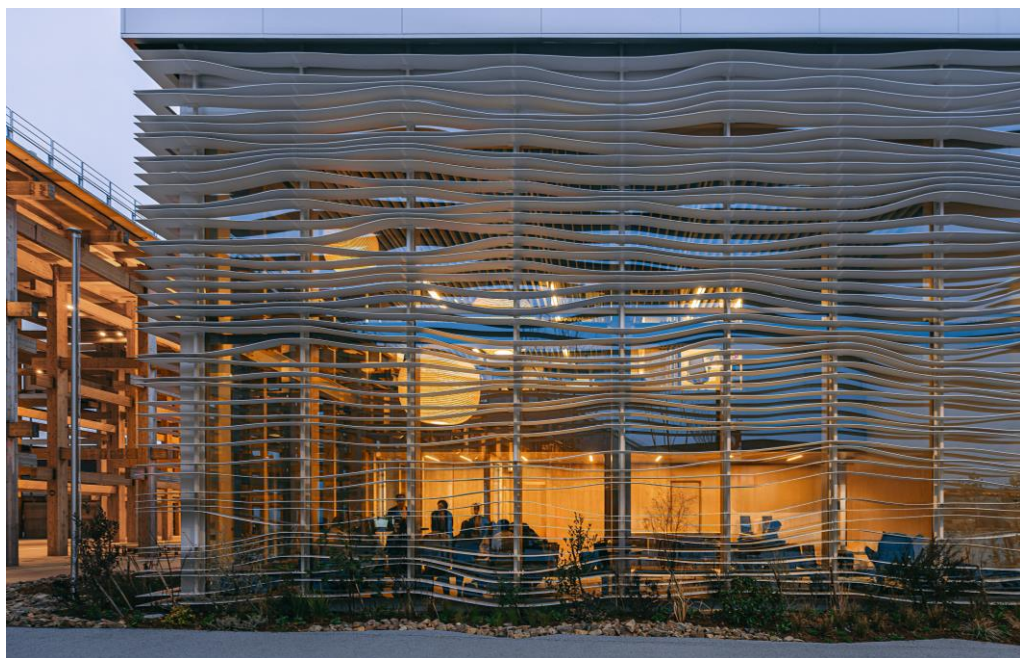
ハイネケン は、世界的に最も知られているオランダブランドのひとつです。ハイネケン社は多種多様なビールを展開していますが、最も有名なのは、緑のボトルに赤い星が印象的なオリジナルラガービールです。2017年には、初のノンアルコールビール「ハイネケン 0.0」を発売しました。味の評価も高く、ビール好きが一日のどの時間でも気軽にハイネケンを楽しめるようになりました。2025年の大阪・関西万博では、オランダ館のカフェでこの「ハイネケン 0.0」が提供されます。

イベント

2025年大阪・関西万博の全体テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。このテーマは、オランダの理念とも深く共鳴しています。私たちは、世界中のパートナーとともに、気候変動、食料危機、高齢化社会、パンデミックといった現代社会が直面する課題の解決に取り組んでいます。

オランダ館では、以下の5つのテーマを軸に、これらの課題に対するソリューションを提示します：気候、健康、ハイテクとDX、食糧、そして文化。これらのテーマについては、次のページで詳しく紹介しています。

また、これらのテーマに加え、万博開催中の6か月間を通じて、来場者の皆さまにはオランダのアーティストや音楽家によるパフォーマンスや期間限定の展示など、さまざまなパブリックイベントにもご参加いただけます。

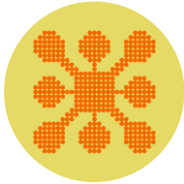


オランダパビリオンのイベントスペース

Copyright: AND BV | Zhu Yumeng

ビジネスプログラム

オランダのビジネスプログラムでは、5つの重点分野（トラック）に焦点を当てています。これらを通じて、オランダの企業や団体が日本のパートナーと出会い、新たな連携や協力の可能性を育んでいきます。



テクノロジー (TECH) | 5月15日～26日

オランダはデジタル・イノベーションの拠点であり、半導体装置、集積フォトニクス、量子技術といった分野で卓越した実績を誇ります。日本も同様の社会課題を抱えつつ、ハードウェアやデータ収集で強みを持ち、オランダはソフトウェア開発とデータ分析に秀でています。こうした補完関係を生かし、精密農業、eヘルス、スマートシティといった分野での共同事業が進められています。



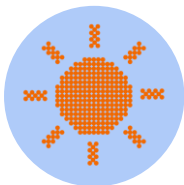
フード (FOOD) | 6月5日～16日、8月31日～9月6日

2050年には世界人口が約100億人に達すると予測されており、革新的かつ持続可能な食料ソリューションが不可欠です。オランダと日本は長年にわたり、農業分野で強い結びつきを築いてきました。持続可能な食への共通のビジョンと、互いに補い合うイノベーション力が、世界の食料生産におけるさまざまな課題に対する創造的な解決策の土台となります。



ヘルス (HEALTH) | 6月20日～7月1日

オランダも日本と同様に、高齢化や医療費の増加といった課題に直面しています。互いのベストプラクティスを共有することで、世界中の生活の質を高めるための新たな解決策が生まれることが期待されています。



気候 (CLIMATE) | 9月15日～28日

気候変動による影響がますます深刻化する中、迅速かつ大胆な対応が求められています。オランダは、日本のエネルギー転換、持続可能性、循環型経済に取り組む産業界と連携し、革新的なソリューションを追求しています。海面上昇のリスクにさらされる両国にとって、気候対策における協力は不可欠です。



カルチャー (CULTURE) | 2025年4月13日～10月13日まで 随時開催

世界的な課題に向き合う際、技術、経済、政治によるアプローチだけでは十分ではありません。私たちの「見方」「考え方」「行動」「想像力」そのものを変えていく必要があります。そこにこそ文化の役割があります。2025年には、オランダと日本の425年にわたる交流も祝われ、文化的なイベントが多彩に展開されます。

一般向けイベント

万博期間中、オランダはさまざまな場所で来場者向けのオープンイベントを開催します。最新のイベント情報は、公式ウェブサイト www.nlexpo2025.com をご確認ください。

5月21日（水）には、**オランダのナショナルデー**を祝います！ぜひご参加ください。



展示「Re-thinking Innovation (イノベーションの再考)」
オランダパビリオン
イベントスペース
4月18日～5月5日



展示「日本とオランダの425年にわたる交流」
大阪城
5月9日～29日



展示「Universal Equity (普遍的な平等)」
オランダパビリオン
イベントスペース
5月16日～6月9日



展示「Bridging Past and Future (過去と未来をつなぐ)」
万博ギャラリー・イースト
5月20日～25日



オランダ・ナショナルデー
万博 ナショナルデー
ホール
5月21日



イントロダンス『UNUM』公演 (LAND FES & 貞松・浜田バレエ団と共演)
万博 ナショナルデー
ホール
5月21日



展示「Bridging Past and Future (過去と未来をつなぐ)」
オランダパビリオン
イベントスペース
6月13日～7月28日



ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団公演
万博 フェスティバル
ステーション
6月20日



野球スター選手 リック・ファン・デン・フルク氏 キーノート
講演
万博 ポップアップス
ステージ・ノース
6月27日



ベンジャミン・ハーマン・トリオ & ゲスト公演
万博 ポップアップス
ステージ・ウエスト
9月18日

日蘭交流425周年

2025年、オランダと日本は、425年にわたる関係の歴史を振り返ります。日本とオランダの関係は、1600年にオランダ船「デ・リーフデ号」が九州に到着したことをきっかけに始まりました。この交流を通じて蘭学の学び舎が設立され、知識の交換が進み、日本の近代化に貢献しました。

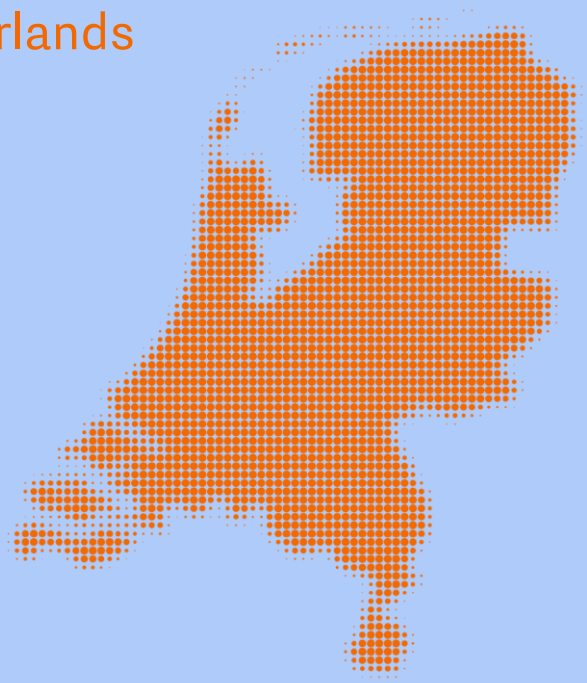
約240年にわたり、オランダは日本にとって唯一のヨーロッパの貿易相手国でした。そして現在も、この関係は発展を続け、日本はオランダにとって重要な貿易・イノベーション・文化のパートナーとなっています。

16世紀から17世紀にかけての日本とオランダの関係をテーマとした展示が、5月9日から5月29日まで大阪城で開催されます。



19世紀初頭、出島へ向かい長崎湾に入る船舶

The Netherlands



オランダについて

世界の課題にも取り組む

オランダはどのように世界に貢献しているのでしょうか？

オランダは、世界が直面するさまざまな課題に、革新的かつ対話的な姿勢で向き合うことで、その存在感を発揮しています。

長い歴史の中で、オランダ人は海面下の低地に暮らしながら、水害対策をはじめ、都市化、エネルギー、食料、健康、そして安全保障といったさまざまな課題に立ち向かってきました。こうした経験を通じて、柔軟で実践的、そして新しい挑戦を歓迎する独自の思考と働き方が培われてきたのです。

オランダは今、都市、産業、農業、自然がスマートなインフラによってつながり、調和のとれたエコシステムを築いています。これは、世界中の人々と共有できる知識と経験の宝庫でもあります。

私たちは、過去から学びながら、より良い未来を創造しようとしています。持続可能で、すべての人にとって暮らしやすい世界を目指して——共に解決策を見つけていきましょう。

詳しくは下記のウェブサイトをご覧ください：

www.nlplatform.com

www.holland.com



フローニンゲン州エームスハーフェン港近くにある、
伝統的な風車と現代な風力発電機

We thank our partners!



建築コンソーシアム



RNU



TELLART

dGm^R

Asanuma

ホスピタリティコンソーシアム



NL オランダ

We thank our partners!



Golden sponsors



Silver sponsors



Special supporters





Expo Osaka 2025,
Kansai, Japan